

調庸比之諸郡衰弊尤甚、望請擇諸郡司之中富豪格勤者募以五位期三年內令治一件郡謹請官裁者右大臣宣奉勅依請與奪之事一準去天長元年八月廿日格、

齊衡二年正月廿八日

〔帝王編年記二十一後白河〕平治元年十二月廿九日、義朝二男朝長、於美濃國青墓宿自害、生年十六
〔吾妻鏡十五〕建久六年六月二十八日辛巳、令著御于美濃國青波賀驛、相模守惟義就獻餉、相州美濃國守護也、

〔平治物語三〕賴朝生捕事附常磐被落事

彼尾張守家人彌平兵衛宗清平季子尾州ヨリ上洛シケルガ、不破關ノアナタ關ケ原ト云所ニテ、ナマメイタル小冠者、宗清ガ大勢ニ恐テ、數ノ蔭ヘ立忍ビケレバ怪ミテ搜ス程ニ、隱レ所無シテ、囚レ給フニ、宗清見レバ、兵衛佐殿ナリシカバ、喜事限ナシ、軀テ具足シ奉テ上程ニ、青墓ノ大炊ガ許ニゾ宿シケル、

〔藤河の記〕あふはかといふはたる井よりこなたなり、名寄に青墓里といへるこの寺にや、契あれば此里人にあふはかのはかなからずば又もきてみむ

〔十六夜日記〕關よりかきくらしつるあめ、亥ぐれに過ぎて、ありくらせば道もいとあしくて、ころより外にかさぬひのうまやといふ所にくればてねどどまる、

たび人はみのうち拂ふ夕ぐれの雨に宿かる笠縫のさと

〔吾妻鏡二十八〕寛喜四年貞永元年十一月十三日、依飢饉可救貧弊民之由、武州被仰之間、矢田六郎左衛門尉既下行九千餘石米訖、而件輩今年無據于辨償之旨、又愁申之、可相待明年糾返之趣、重被仰濟之儀、遣平出左衛門尉春近、兵衛尉等、於當國於株河驛、被施于往反浪人等、於尋緣邊上下向輩者、